

しまだい

s h i m a d a i

広報しまだい

2017.1

vol. 31

特集1

活躍する島大アスリート
「飛込み」

須山 晴貴さん
(教育学部1年)

特集2

地域課題に取り組む人材を育成
新学部「人間科学部」を
掘り下げる!

卒業生との交流を育む
ホームカミングデーを開催
サクソ・宮本美香さん
ピアノ・三浦芳男さん



飛込みでオリンピックを目指す 須山 晴貴さん

努力とセンスが光る！ 活躍する島大アスリート

島根大学には数多くの部活動があり、学生たちは日々練習に励んでいます。今回は飛込み競技で、日本のみならず国際大会でも活躍し、優秀な成績を収めている水泳部の須山さんにお話をうかがいました。



須山 晴貴さん

教育学部 健康・スポーツ教育専攻 1年

松江市出身。小学3年の時に姉の影響で飛込み競技を始め、小学4年で全国優勝し、本格的に飛込みの世界へ。高校時代はインターハイや国体で優勝するなど優秀な成績を収める。地元に進学したいと島根大学に入学し、現在は学業と、競技練習や大会参加との両立で忙しい日々を送る。

美しさを競う飛込みで
日本を代表する選手に

2016年9月に開催された水泳の日本学生選手権(インカレ)男子3m板飛込みで優勝、11月のアジア選手権大会では3位入賞を果たした、教育学部の須山晴貴さん。飛込みとは、一定の高さの飛込み台から空中に飛び出し、着水までの動作の技術、美しさを競う競技です。飛込みから着水まで、わずか2秒弱という短い間に様々な技を繰り出し、評価点を競います。須山さんは、全国高校総体(インターハイ)2冠、国体では少年男子高飛込みで優勝するなど、高校時代から様々なタイトルを手にしてきましたが、今回のインカレ優勝で、大学入学後初の全国タイトルを手に入れました。今後、日本のみならず世界での活躍が期待されています。



【特集3】

地域の未来を考える 大学改革シンポジウム…………… 05

- 島根の農村で深まる異文化交流…………… 09
- 公開シンポジウム「夢の先進研究大公開」… 11

- しまだい×島根のまち[出雲市]…………… 15
- しまだい×島根の企業[一畑グループ]… 17
- ホームカミングデー&大学祭レポート… 19
- しまだい便り…………… 21
- キラリ島大生…………… 23
- 読者の声…………… 24

- しまだい's サークル…………… 25
- 島根スサノオマジック活動紹介
島根大学支援基金寄付者一覧
読者プレゼント…………… 26

須山さんへ一問一答

競技への想いや現在の練習内容、今後の目標について聞きました！

Q 飛び込みを始めたきっかけは？

もともと姉が飛び込みをしていて、その練習について行ったのがきっかけです。楽しそうだなと思ってその流れで始めました。

Q この競技の魅力とは？

高飛び込みは派手さがあり、高いところから繰り出す技には目を見張るものがあります。入水時に水しぶきが一切たたないことを水切れというんですが、会場がものすごく沸きますし、プールから顔を出した時に会場が沸いていると、してやったりと思ったりします。見る競技なので、そういったところが魅力です。

Q 現在の練習時間や内容は？

週に6回、県立プールで練習しています。プールが使えない冬場は、トランポリンを使って空中感覚を養っています。あとはウエイトトレーニングなどですね。でも、プールで飛ばないと感覚が

鈍るので、1ヶ月に最低1回は土日を使って合宿に出ています。プールが使えない時期は1日練習もあつたりして、実践的な技を反復しています。

Q 今重視しているトレーニングは？

次の試合まで少し期間が空くので、体作りをしていこうと思っっています。板飛び込みは、板を踏む筋力が重要です。跳ね上がる時の瞬発力も必要です。筋力を付けつつ、瞬発力も付けるという体づくりをしなければなりません。

Q 試合中に意識していることは？

一番は「切り替え」ですね。予選などの場合、6回飛び終わるのに2〜3時間くらいかかるので、集中力の持続が



難しい。なので1本飛んだらリセットしています。自分の場合、携帯を見ますね。携帯を見てリセットして、次の種目に向けて体を軽くほぐして、コーチのアドバイスを聞いて、また飛んで、リセットして……という感じです。良くても悪くてもそこでパツと切り替えるのが大事かなと最近思っています。

Q さらに上を目指すために

必要なことは？

筋力も足りないし、体づくりを優先しなくてはなりません。あとは、種目（技）の難易度を上げることです。日本は飛び込みが弱いのですが、その理由は技の難易度が低いこともあります。身体能力の高い海外の選手に追いつくためには、種目の難易度を上げないといけませんし、難易度を上げるためにも体づくりが必要だと考えています。

Q 今後の目標を教えてください。

2020年の東京オリンピックを目指しています。その前段階として、海外の試合にどんどん出て名前を売ることが大切です。代表に選ばれる回数が増えるように、種目の完成度を上げてもっと戦える選手になりたいと思います。

いよいよ今春設置 地域課題に取り組み人材を育成 新学部「人間科学部」を掘り下げる！

人間科学部の
詳しい内容は
こちらから

【学部HP】



【学部紹介ビデオ】



いよいよ2017年4月に、島根

大学で6番目の学部として開設される「人間科学部」。本学部は「心理学コース」、「福祉社会コース」、「身体活動・健康科学コース」の3コースからなり、広く地域コミュニティを支える人材を育てます。さらに、この学部を核に、島根大学の6学部一体となり「人」をキーワードに教育・研究を進めていきます。

「人間科学部」3コースの特色 それぞれの学びと人材育成とは

そこで今回は「心理学」、「福祉社会」、「身体活動・健康科学」の3コースでどのような事が学べ、どのような人材を育成していくのかを掘り下げて紹介します。コースの概要と担当教員の紹介、そして担当教員からの地域の方や未来の島大生の皆さんへのメッセージを通じて、より身近に「人間科学部」を感じてください。

心理的側面から捉える

心理学コース

人を理解するには、目の前の個別の人を大事にする視点と、人の心の一般的な傾向を捉える視点の両方が必要です。実験や調査で人間の心や行動を科学的に捉え、実践的に人間の心を共感的・客観的に理解するなど、多角的に学びます。地域実践の授業では、地域の人々と実際に関わり、体験的に学びます。これらの学びを通して、人間の心や行動の法則を捉え、地域に生きる人々を心理的な側面から理解し援助することができ、「地域実践力」を育成します。



社会的側面から捉える

福祉社会コース

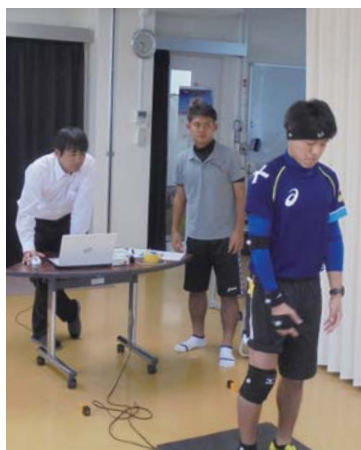
人間の尊厳を保障する営みとして、福祉サービスは、今や私たちの生活になくてはならないものです。本コースでは、人を支えるという視点から、日本社会が抱える問題を多角的に掘り下げて考えます。同時に、人が生活課題を抱えて独りで苦しむために、どのようにすればよいかを考え、実行するための基礎的な力を養うことができます。人を支え、人と人とを繋ぐ福祉の思想と実践からは、人の強みが引き出されます。それぞれの人の強みを繋ぐ場を地域生活の中につくりだす人(＝社会福祉士・精神保健福祉士)の育成を担うのが福祉社会コースです。



身体的側面から捉える

身体活動・健康科学コース

健康には身体的、精神的、社会的側面があります。本コースは、その中でも身体的な健康に着目し、健康を科学的に学びます。運動生理学、バイオメカニクス、産業衛生学、環境保健学をはじめ、身体を包む健康衣料、さらにはヘルスケア関連の経営学に至るまで、幅広い専門領域の教員がいます。健康社会を支えるための多様な講義や、社会保健施設などの実習を通じて、人々の健康を支え健康長寿社会を支える力を持った人物を育成します。



教員紹介

各コースには、様々な分野を専門とする教員が所属しています。ここでは4名を取り上げ、各コースの学びについて紹介します。



身体活動・健康科学コース

人間科学部設置室 室員
清水 悠

担当講義

バイオメカニクス、バイオメカニクス演習、バイオメカニクス実験、疫学・統計学、疫学・統計学演習

■主な研究テーマ

タイプ別にみた一流走幅跳選手のモデル動作に関するバイオメカニクスの研究

教育学部の健康・スポーツ教育講座から人間科学部の身体活動・健康科学コースへ移ります。日常生活で用いる基礎的な動作から一流選手を対象としたスポーツ動作まで、様々な「動作」に着目して研究しています。一流選手の動きはどうなっているのだろうか？どうしたら速く走れるのだろうか？こんな風に跳ぶことはできないだろうか？など、身体活動・健康科学に関する身近な疑問を最先端のバイオメカニクス理論から一緒に考えていきましょう。



心理学コース
(臨床心理学分野)

人間科学部設置室 室員
野口 寿一

担当講義

人間科学概論、グループアプローチ概論、心理面接実習、臨床心理事例研究、地域臨床実践研究、インタラクティブプレゼンテーションミーティングなど

■主な研究テーマ

夢分析・遊び・描画などイメージを用いたカウンセリングに関する研究、現代の人々の心のあり方に関する研究

「カウンセリング」というと、悩みを相談する時間というイメージですが、実は、今はまっていることの話、見た夢の話、絵を描くこと、子どもだったらおもちゃで遊ぶことなど、一見悩みと関係なさそうな作業が心を動かしていくことがあります。人間科学部の心理学コースでは、心の癒しの可能性について、様々な角度から、しかも、臨床実践としっかりと結びついた形で学べますので、興味をもたれた方はぜひ一緒に臨床心理学を学びましょう。



心理学コース
(実験心理学分野)

人間科学部設置室 室員
川上 直秋

担当講義

社会心理学、心理統計、心理学実験演習

■主な研究テーマ

社会心理学と認知科学に関する研究。特に、社会の中における無意識の心の働きに関心があります。

私たちは良くも悪くも社会や地域の中で生きています。私の専門とする社会心理学は、そのような人と人との繋がりで起こる心理的現象を研究対象とします。例えば、対人関係や印象形成、集団などです。しかし、人の心は目に見えません。そのため、視線の分析や脳活動の計測なども行いながら、見えない心の仕組みを実験や調査を通して科学的に調べています。心の働きを解明することが、回りまわって社会や地域に生きる誰かの助けになればと願っています。



福祉社会コース

人間科学部設置室 室員
和氣 玲

担当講義

医学概論、精神医学、精神保健学、精神科リハビリテーション学、精神保健福祉実習指導など

■主な研究テーマ

臨床精神医学、児童精神医学、精神科診断学

これまで私は、精神科の医師としてさまざまな患者さんに最善の治療ができるよう、島根大学医学部附属病院で診療・研究活動を進めてきました。福祉社会コースでは、広い視野に立って、さまざまな問題を抱える人々に寄り添いながらその人の強みを引き出し支えていく、福祉の専門職の養成を目指しています。臨床経験を通じて私が学んできたことを、できるだけ分かりやすく伝えていくことで、そのお手伝いできればと考えています。

未来を、大学と地域がともに考える 雲南市において大学改革シンポジウムを開催



10月16日(日)、雲南市加茂文化ホール「ラメール」において、教育関係者等を対象とした「平成28年度大学改革シンポジウム」(一般社団法人国立大学協会と共催)を”ともに未来を考える地域でつながる私たちにできること”と題して開催し、534名が参加しました。

地域と大学が担う 未来の人材育成

島根大学では平成27年度から全学に地域貢献人材育成入試を導入し、学部横断的な「COC人材育成コース」を開設するなど、地域に関する実践的な学びをさらに強化し、地域に貢献できる人材の育成を推進しています。高校生・大学生が地域づくりや自分の将来について考え、対話することを中心に、



雲南市長・速水 雄一氏
平成16年11月、雲南市誕生とともに雲南市長に就任。現在4期目を務める。

教育関係者、地元自治体、地域住民とともに意見交換をする機会とするために本シンポジウムを開催しました。

雲南市と本学は、平成17年に「包括的連携に関する協定」を結び、相互に交流・連携して地域づくり、人づくりを進めていることから、この度「雲南市教育フェスタ2016」と共同開催することになりました。

オープニングでは、雲南市教育フェスタ主催者である雲南市の速水市長と、大学改革シンポジウムの主催者である島根大学の服部学長よりそれぞれ挨拶がありました。速水市長は、平成16年に雲南市が誕生



島根大学長・服部 泰直
平成27年4月より島根大学長に就任。
長野県出身。専門分野は位相数学。

して以来、これからの雲南市を担う人材を育成することを目標に掲げてきたことを述べ、「ふるさとに誇り、愛着を持つ子どもたちを育むことが、持続可能なまちづくりのための人材育成につながる。」と挨拶されました。

続いて、服部学長からは、島根の地にある大学として地域貢献を推進する一つとして、地域貢献人材育成入試を取り上げ、「学生をいかに地域に出し、地域の課題を理解し、その解決方法を探るか。そして、学生の各専門分野の知識をどのように生かして課題解決していくかが、重要です。」とし、本シンポジウムが課題解決に向けた良いチャンスになるのではないかと期待を述べました。



第一部
高校生と大学生が
地域活動体験を発表

第一部の「高校生と大学生による地域活動体験発表」では、大東高校、飯南高校、島根大学の学生が実際に行った地域活動について発表しました。発表後には、インタビュ어도行われ、参加者の地域活動についての理解が深まりました。

島根県立大東高校
防災をテーマにした
地域課題の研究

福岡 千紘さん(2年)
楠 胡桃さん(2年)
川本 晃子さん(2年)

島根県立大東高校は雲南市大東町佐世地区における「防災」をテーマに行った地域課題の研究についての発表を行いました。この研究は、佐世地区に住んでいる方の防災意



識が低く、また自治会ごとに防災に対する意識が違ふという市のアンケート結果をもとに、非常時に持ち出す物のリスト作成と配布、防災に関する講演会を開催することで、住民の防災意識が高まるのではないかとという仮説を検証しようというものです。

7月から8月にかけて地域自主組織の担当者や高校生が協力して、非常持ち出しリストの配布、風水害や避難場所、避難経路に関する講演を行い、住民の意識改善がなされたかのアンケートを行いました。

アンケートの結果からは、非常持ち出し袋リストについては評価する意見が多かったものの、50代から60代の方を中心に否定的な意見もあり、非常時のグッズに関する使用方法や説明に工夫の必要性があることが分かりました。また、講演会によつて具体的な避難の方法等が広く理解されたことが結果に現れました。さらに、この取り組みを通じ



て、若い世代の防災への関心をどう高めていくかという新たな課題も発見されました。

発表した3名の高校生は「この活動を通じて、複数の事を進めることや限られた時間での進行といった難しさを感じたり、アンケートや講演会に協力してもらえないのか不安を感じたりしました。しかし実際には、たくさんの方々の協力があり、本当にこの活動をやつてよかった。」と結び、活動を通じて自分たちの地域を改めて見つめることが出来たと感想を述べました。

島根県立飯南高校

飯南町の魅力を発見 森の学校サマーツアー

村重 彩香さん(3年)
須藤 孝太さん(2年)
武田 遼平さん(2年)
熊代 剛琉さん(1年)

島根県立飯南高校は県内外の中学生に飯南高校や飯南町の魅力を知ってもらおうと開催した「森の学校サマーツアー2016」についての発表を行いました。このイベントの企画と運営を行ったのは、5人の県外出身生徒と雲南市出身の1人を含む3人の町外生徒の合計8人。それぞれの視点や気づきをこの事業に活用しました。



開催のきっかけは、高校生をはじめとした若者の数が減少している状況に危機感をもった飯南高校生が、以前から飯南町が行っていた「サマーツアー」の企画



をやりくりしながら、イベントを開催することができました。

イベントの内容は、都市部ではなかなか経験できない野菜収穫体験やピザづくり、志津見ダムでの巡視体験など豊かな自然とその恵みを感じられるもので、町長をはじめ地域の人々とのバーベキュー、民泊など、交流も盛んに行われました。

高校生は「イベントを通じて飯南町の魅力を体感してもらい、インターンなどで、どんどん人口を増やしていきたい。これまで社会とのつながりを考えたこともなかったが、高校生でも積極的に行動することで、社会を変えていくことができる」と思った。この意識を共有していくことで、必ず良い社会をつくることができる」と確信しています。「と今後の抱負を述べました。

を、自分たちが企画することで、より良いものができるのではと行動したことでや勉強など多忙な時間を

島根大学

COC人材育成コースの 学びを通して考えたこと

土江あやかさん(教育学部1年)

教育学部1年生の土江あやかさんは、山陰地域で地域に貢献し、活躍する人材を育てるために設立されたCOC人材育成コースの二期生。COC人材育成コースの概要や、地元の魅力伝えていくために地域の全てを学びたいと入学を目指したこと、「フレッシュマンセミナー」と呼ばれる1泊2日のセミナーでのフィールドワークの実例などを紹介し、COC人材育成コースで学びを深めていることについて発表しました。



土江さんは、今後の目標として「様々な機会を通じて、地域教育に詳しい、地域と学校の懸け橋になれる教員になりたい」と将来の夢を語りました。

地域資源を生かした 地域づくりについて

藤井 春菜さん(生物資源科学部4年)

生物資源科学部4年生の藤井春菜さんは、大学生活や卒業研究について発表しました。入学のきっかけとなった地元の因島での体験やコミュニティデザインに関する書籍との出会い。講義を通して地域資源の重要性に気づき、卒業研究では水資源、その水処理に関わる紫外線と微生物の関係を研究しており、卒業後は大学院に進学したいことなどを発表しました。



最後に高校生に向けて「大学では仲間づくり、様々なことへの挑戦、教員と学生の距離が近く地域での活動も多い環境で学びを深めること。そして充実した大学生を送って欲しい」とメッセージを送りました。

第2部

自分の将来について考える
ワークショップを実施



第2部のワークショップでは、約90名の高校生と大学生が2つの会場に分かれて、雲南市の課題についてグループごとにディスカッションしました。

まずはお互いを知るために記入式のカードを使って、将来の夢とともに自己紹介しました。その後、「地域の困りごと」として、「空き家が増えて困った」「地域行事への若者



高校生と大学生がワークショップを行っている間、別会場で地域住民、PTA保護者、教育関係者が集まり「熟議（小グループでの意見交換）」を実施していました。

の参加が減って困っている」「車がないと買い物にも病院にも行けなくて困る」「木次線の将来が心配だ」という4つの課題について、それを解決するために何ができるかを考え、発表しました。最後に、自分はこれからどうなっていきたいか、また、そうなるために自分ができること、これからやっていきたいことは何かについて話し合い、ワークショップを終えました。参加者からは、「自分の意見をまとめて伝えるのが難しかった」「自分の将来について具体的に考えることができてよかった」などの感想が聞かれました。



第3部

今後の人材育成に向けて
参加者全員での共有

【ファシリテーター】

神奈川大学 理事長付特別審議役
前まちひとしごと創生本部事務局参事官

小山 竜司氏

NPO 法人カタリバ 代表理事

今村 久美氏

島根大学 地域教育魅力化センター
地域教育アドバイザー、
島根県教育庁 教育魅力化特命官

岩本 悠氏

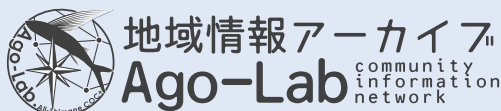
クローズセッションでは、第1・2部の内容を踏まえて、参加者全員で「これからの社会を生き抜くために必要な力とは何か」について意見を共有しました。ファシリテーターを務めたのは、神奈川大学の小山



氏、NPO 法人カタリバの今村氏、本学地域教育魅力化センターの岩本氏の3名。ステージ上から、客席にいる熟議・ワークショップ参加者へ、それぞれのような話をしたのか質問し、いくつかのグループから発表がありました。

地域住民、高校生と大学生が一体となり、今後の人材育成について考える貴重な機会となりました。

2016年11月に本格オープン!



地域の魅力を見える化!
県内の活動を集約したWebプラットフォーム

地域情報アーカイブ「Ago-lab」は、島根県に関する様々な情報を誰でも簡単に投稿・閲覧することができ、県内の取り組みやイベント等について一元的に知ることができるWebプラットフォームです。島根県内の活動や地域の魅力の見える化を進め、企業、自治体、NPO、学校教育機関、そして市民が出会い協働するきっかけ作りを目指しています。投稿アカウントの申請を、11月より開始しました。ぜひ一度ご覧ください。

まずはアクセス!



島根の農村で深まる異文化交流

International exchange of Shimane University



1. 農家民泊のひとコマ、各家庭ごとに農作業や家畜の世話、料理など様々な内容を体験。2. 出羽神楽団との交流会。3. 地域の方に教わりながらしめ縄作りを体験。4. 邑南町と世界の稲作・米文化についてプレゼン。5. 邑南町の伝統料理・押し寿司作りに挑戦。6. 矢上高校文化祭ではお茶と和菓子のおもてなしを受ける。7. 市木小学校の児童にむけたメッセージ。

9月2日～5日にかけて、島根大学と包括協定を結んでいる邑南町において、留学生の研修旅行を実施しました。地域の方との交流を通して日本の文化に触れた留学生たちの、研修旅行記をお届けします。

留学生14名が、日本の文化に触れる

島根県のほぼ中央部に位置し、豊かな自然に育まれた農村文化と、古き良き伝統文化が残る邑智郡邑南町で、島根大学は2010年から留学生の異文化交流プログラムを行っています。第7回目となる今回は、8カ国14名の留学生と、日本人学生3名、そして引率教職員3名の計20名が訪問し、「島根の農村と世界の縁結びプロジェクト2016」と銘打って実施しました。

の市木国際交流まつりでは、地域で稲作に携わる方から講義を受けた後、各国の米事情について意見交換したほか、しめ縄や折紙などの伝統工芸を地域の達人に教わりながら体験しました。同日夕方から2泊3日の農家民泊が始まり、各家庭で昔ながらの伝統的な暮らしや温かい人情を体感しました。最終日に予定していた市木小学校での交流会は、台風による休校のため実施できませんでしたが、留学生は小学校を訪問して児童への応援メッセージを残し、後日児童からお礼の手紙が届くなど、会えなくても心の通う交流が実現しました。

国籍や言葉、文化を越えて地域の人と交流を育む

最初の訪問先は県立矢上高校の文化祭です。ステージ発表や昼食、交流ゲームを通して親睦を深めました。その後、池月酒造にて日本酒の文化と歴史を学び、同夜には出羽神楽団による石見神楽を鑑賞し、衣装や面、楽器の体験もしました。2日目

3泊4日の旅行で、留学生たちは邑南町の生活文化や伝統芸能に触れ、日本文化の奥深さを体感するとともに、地域の方と様々な場面で時間を共有し、国籍、年齢、言葉、文化を越えて相互理解を深めることができたようです。

留学生の研修レポート

3泊4日の研修を終えた留学生の皆さんに、邑南町での貴重な体験を振り返ってもらいました。どのようなことを学び、感じたのでしょうか？

REPORT 1



プリラメシュラジ
Puri Ramesh Raj さん
(連合農学研究科 博士課程1年)
ネパール出身



家族のように迎えてくれたことが嬉しかった

初めての邑南町は、自然も人も素晴らしいところでした。日本の生活を体験できたのはもちろん、家族のように受け入れてくれたことが嬉しかったです。民泊ではコンバインに乗って稲刈りを体験したり、家族と一緒にコタツを囲んで家族団欒の時を過ごしたりしました。邑南町の人たちの、田舎ならではの良さを大切にし、外から来た人に対して思いやりを持って接する精神に感動しました。



▲ 民泊先の田んぼでお手伝い

日本にもうひとつの家族ができたみたい！

私は4度目の参加でした。この旅行での体験すべてが印象的ですが、一番の思い出は民泊です。日本の家で実際に日本の生活ができたことは、とても貴重で素晴らしい経験でした。4回とも違うお宅にお世話になりましたが、それぞれの家に特徴があって、毎回違った良さを感じられました。いつも私たちを家族のように温かく迎え入れてくださる邑南町の皆さんが大好きです。



▲ 今回の民泊先のご家族と

REPORT 2



シレガー アドハ ファトマ
Siregar Adha Fatmah さん
(連合農学研究科 博士課程3年)
インドネシア出身



温かくてやさしい人たちとの出会いが宝物

邑南町の人たちは交流に積極的で、私たちを喜んで迎えてくれました。皆さんと出会えたことが一番の思い出です。民泊先のお母さんは、時間にぎっちりしているところがタンザニアの祖母に似ていて、懐かしく感じました。また、市木の祭りで学んだ稲作の歴史も興味深かったです。地域の人たちが我慢強く、努力しながら少しずつ稲作の技術を進歩させてきたことに驚き、感動しました。



▲ ご近所の浄泉寺にて仏教の心に触れる

REPORT 3



ンドゥシー デイビッド ウィリアム
Ndossy David William さん
(総合理工学研究科 修士課程2年)
タンザニア出身



将来の生活を変えるかもしれない研究がズラリ
公開シンポジウム
「夢の先進研究大公開」を開催



**楽しく分かりやすく
 研究の「夢」を語る**

10月22日(土)、くにびきメッセ国際会議場において、公開シンポジウム「島根大学夢の先進研究大公開」を開催しました。本学で行っている重点研究や萌芽研究などの先進的な研究を、誰にでも分かりやすく紹介し、本学の研究活動への理解を深めていただくことを目的としたものです。

当日は、市民の方や高校生、大学生など300名近くが来場し、熱心に耳を傾けました。また、昼休みのポスターセッションでは、島根県観光キャラクター「しまねっこ」も駆けつけ、会場を大いに盛り上げてくれました。

今回のシンポジウムで、本学での研究が個人の生活と決して無縁なものではないことをご理解いただき、島根大学と地域の方々共通の実現可能な「夢」への期待を具体的に持っていただけたのではないのでしょうか。

そんな夢の詰まったシンポジウムの様子をダイジェストでお届けします。

開会挨拶



島根大学 長
服部 泰直

会場を見渡しますと、高校生、大学生、一般の方と様々ですが、特に若い方が多いことを嬉しく思います。

学問・研究の最前線はなかなか分かりにくく、一般の方にとっては近づきにくい世界に見えるかもしれませんが、本日のシンポジウムでは、島根大学で実際に進められている研究を中心に、最新の研究の世界を皆さんに分かり易くご紹介いたします。ご参加いただいた方々には様々な分野の研究の最前線に触れ、楽しんでいただければ幸いです。高校生の皆さんにとりましては学問・科学の扉をあける第一歩となるように、そして大学生には自分の専門分野とは異なる分野の話聞き、自分の学問的興味関心の幅を広め、柔軟な発想力を養い、今後の研究・学修に励んでほしいと思います。

全体説明

「夢」をかなえる 島根大学の先進研究紹介

島根大学の研究は、蓄積と還元という二つの使命を帯びていると考えています。まず、高度な研究成果を蓄積しその成果を得るために、学部の壁を超えた特色ある研究の推進が目標になります。現在は重点研究・萌芽研究・特別研究を設けて取り組んでいます。次に、社会の要請に対応し、成果を還元することについてですが、COOCとCOOC+という二つの事業を行っています。地域貢献に資するために教育・研究を行い、さらに人材を地域に根付かせるというプロジェクトです。島根大学には面白い研究がたくさんありますが、将来に向けてどのように研究を進めたらよいか、皆さんと一緒に考えていただければと思います。



島根大学 理事
(企画・学術研究担当) / 副学長
秋重 幸邦

光を使って 生命の謎を探る！

重点研究の一つの大きなテーマになっているラマン分光法についてお話します。島根県は高齢化が進んでおり、健康寿命を維持するためには、医療診断の技術が大事だと考えています。医療診断にあたり、できるだけ患者さんの負担が少なく、的確な診断ができるような医療技術を、光を使って開発を進めています。ラマン分光法の良いところは、生きた組織や細胞にどのような分子がいるのかをそのまま見ることができるところです。私たちはそれを応用して医療技術の開発を行っています。なぜ、科学にとつて重要な分子の情報があるがままに得ることができているのか？それは濱口先生のお話を聞いていただければと思います。



島根大学生物資源科学部教授
島根大学重点研究プロジェクトリーダー
山本 達之



招待講演

人間の眼、科学の眼

「科学の眼」をキーワードで出しましたが、これはラマン分光法のことです。皆さんあまり意識されていないかもしれませんが、肉眼で見ないかもしれないが、肉眼で見ない、形や色、動きを見る。情報のインプットの最初には眼があるんです。1960年代のレーザーの発明によって新しい科学の眼が誕生しましたが、レーザーの登場により、ラマン分光法は各段に進歩しました。

ラマン分光法を使うと、様々なことが可能になります。例えば、ビールの発酵に使う分裂酵母を調べますと、細胞分裂のプロセスがよ

く分かります。外から見ると生きているか死んでいるか分かりませんが、それがすべて分かるのです。また、ガンの診断も可能です。ラマン分光で肺組織を見ると、ガンの部分が一目で分かります。そこだけを切除して極力良い部分を残すことも将来的には可能になるわけです。さらに、肉の過熱処理状態を見ることができると、食品の品質管理にも利用が期待できます。

ラマン分光法は科学の眼として、分子のミクロの世界を見ることが出来ます。また、その技術は成熟していて、いろんなことに使えます。さらに、ラマン分光法は用途に特化して、非専門家でも利用できるツールなのです。難しいことを省いて、結果だけが出るようなシステムを作れば、もっと幅広く役立てていけるのではないかと考えています。



台湾国立交通大学理学院
講座教授
濱口 宏夫

増加の続く食物アレルギーにどう対処するか？ 好酸球が関与する 慢性型消化管アレルギー

近年、急激な増加傾向を見せているのがアレルギーの病気です。例えば、寄生虫に反応して体を守ってくれる好酸球という細胞があるのですが、近年寄生虫が減少して暇になったものが卵や牛乳などに反応して炎症を起こすといったことがあります。好酸球が関わるアレルギーの一つに、好酸球性食道炎があります。診断には細胞生検が必要なのですが、これは患者さんの負担になる場合が多いんです。そこで着目したのがラマン分光法です。この研究を進めていけば、好酸球のみが反応する刺激光を与えることで、内視鏡で見ただけで診断ができるようになります。近い将来実際の診療で使えるようにしていきたいと思えます。



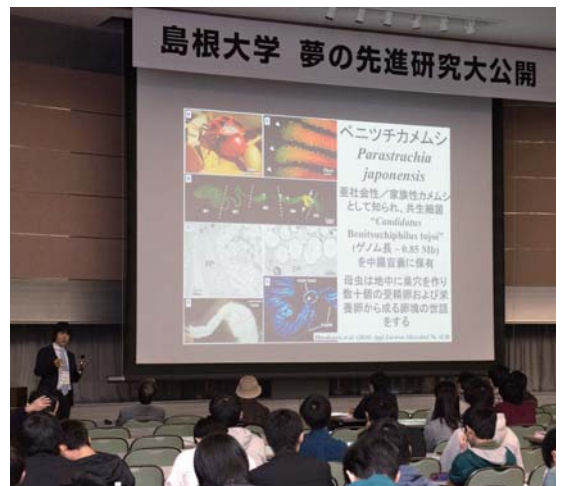
島根大学医学部教授
木下 芳一

電気を蓄える 島根大発の コンデンサ材料

強誘電体とは、+と-の電気が分かれている物質で、身の回りの様々な電気製品に使われているものです。例えば、電気を素早く貯めて放出し、音や映像を綺麗にできることから携帯やパソコンに使われていたり、押すと電気が生じるのでライターやガスコンロの着火にも使われていたりします。この強誘電体について、私は主に基礎的部分を研究しています。つまり、新しい強誘電体を見つけ、性質を調べ、良い性質を出す原因を調べています。そして、この研究を医学分野へ応用することも検討しています。超音波の形を整え、より患部に届くようにするために強誘電体のナノ粒子を使うことを考えています。



島根大学教育学部講師
塚田 真也



招待講演

昆虫と微生物の共生進化

自然界には、本当にいるんな生き物が存在しています。生物多様性といいますが、どのようにして多様性が生まれてきたのか？それを理解するためのキーワードとして重視しているのが共生という現象です。中でも特に私に関心を持っているのは「内部共生」です。これは、

ある生物の体の中に他の生物が取り込まれて、永続的もしくは半永続的に共生している状態です。最高の空間的接近性で成り立ち、極めて高度な相互作用や依存関係が見られます。このような共生関

係から、しばしば新しい生物機能が生み出されてきます。

昆虫類と細菌類の間の共生関係というのは、自然界で普遍的に見られるものです。おそらく昆虫類の10〜20%の種類は、微生物なしでは生きていけません。その微生物たちが、宿主の体の色を変化させたり、害虫化させたり、新しい植物に適応させたり、殺虫剤への抵抗性を持たせたり、性別を変えたり…と、実に様々な機能を発揮するのです。共生によって、いかに異なる生物の機能が溶け合って統合され、ひとつの生命システムを構築するまでに至るのか。それを現代生物学の最新の技術を駆使して、徹底的に解明していきたいと考えています。博物学と現代生物学の発展的統合を目指して、志を同じくする仲間たちと日々研究に取り組んでいます。



産業技術総合研究所
生物プロセス研究部門首席研究員
深津 武馬

塗料やインクの乾燥の様子を 見えるようにする夢の技術、 デジタルホログラフィ

ホログラフィって聞いたことがありませんか？光の全情報を記録・再生する技術で、微小な膜の変化をナノメートルのモノサシで見ることが出来ます。製品に塗料を塗る過程で一番大事なものは「指触乾燥」です。乾燥を触って確かめているんですね。この重要なタイミングをどうやって計ればよいか。我々はデジタルホログラフィを使って塗膜にレーザーを照射しホログラムを記録、数値に置き換えて乾燥が進む過程を目で見えるようにする研究を行っています。これは、乾燥以外にもUVクリームの効果、自動車塗装、印刷など様々なことに応用できると考えています。



島根大学大学院総合理工学研究科教授
島根大学萌芽研究プロジェクトリーダー
横田 正幸

出雲の古墳にみる 世界観と黄泉国訪問譚

『古事記』『日本書紀』に出てくる出雲神話に関する話を、古墳といふところから見えていきます。今回取り上げるのは、イザナギが黄泉国を訪問するというエピソードです。この物語の描写を見ると、神話の時代背景は古墳時代だと思われれます。また、黄泉国の埋葬空間は、出雲型石棺式石室を題材に描いたものではないかと考えられます。当時の王権は近畿地方ですが、そこから離れた出雲が、なぜ黄泉国の神話の舞台に選ばれたのか。私は、出雲が近畿地方からみて一番身近な外部の世界だったからではないかと考えています。つまり、外部世界との関係構築を進めていたことを、神話の世界で表現したのではないのでしょうか。



島根大学法文学部准教授
島根大学萌芽研究プロジェクトリーダー
岩本 崇

島根大学の先進研究が 結ぶ私達の「夢」

シンポジウムをしめくくるのは、これまでに講演された先生方には、重点研究サブリーダーの長井医学部教授を加えた7名によるパネルディスカッションでした。司会を務めたのは佐藤副学長（地域連携・貢献担当）と山本教授です。佐藤副学長より、「大学の研究を身近に感じてもらうためにはどのような方法があるのか」を論点に、先生方が日頃から実践していることについて述べられました。現地調査が多い先生は、調査の際に出会う地域の方との「コミュニケーション」を大事にしていると話されます。地域の方と接する頻度が高い医学部の先生は、病院的待合室で毎週違う先生が「健康講座」を行っている事例を紹介されました。その他にも、大学生の教育を通じてであったり、企業向けセミナーで成果報告したり、プレスリリースを行ったりと、それぞれの所属や専門分野を生かした工夫をされているようでした。

【司会進行】
山本 達之、佐藤 利夫



【パネラー】
木下 芳一、長井 篤、塚田 真也、濱口 宏夫、
深津 武馬、横田 正幸、岩本 崇



今回紹介する
自治体は…
出雲市

しまだい × 島根のまち

各学部・学科単位で県内様々な市町村とのつながりをもつ島根大学。その広いつながりの中で、大学と地域、2つの要素が合わさったとき、一体どのような効果が生み出されているのか。具体的な取り組みを交えて紹介します。

出雲圏域糖尿病対策

医学部

行政とかかりつけ医、附属病院の連携

出雲保健所主催により、行政とかかりつけ医、附属病院などで出雲圏域糖尿病対策検討会を開催し、事業の連携体制の活用状況についての情報交換や評価を行っています。出雲圏域では、検討会の中で糖尿病の発症や進展のおそれがある人のうち、保健指導や療養支援が必要な人に医療機関と連携して病気の発症や進展を予防する取り組みを行っています。この取り組みは、かかりつけ医や糖尿病専門医が保健指導の必要があると判断した人がいた場合、市に連絡し、市が対象者に対して生活指導や支援を行うものです。また、新たに発症した人や合併症で重症化する恐れのある人は附属病院などの糖尿病専門医のいる医療機関に紹介する病診・診診連携の支援や、スムーズな連携のために「紹介の目安」を作成しています。

図書館間での相互協力

**附属図書館
医学図書館**

大学図書館と公共図書館—強みを生かした連携

島根大学附属図書館医学図書館は、島根県立大学出雲キャンパス図書館及び出雲市立図書館と相互協力に関する協定を締結し、図書相互貸借などにより利用者の利便性の向上や資料の有効活用を図っています。これにより、医学図書館に所蔵している古医学書などの貴重資料の企画展示や講演会を出雲中央図書館で開催するなど、それぞれの館種の特徴や強みを生かした取り組みが可能になっています。



地域医療共同研究

医学部

地域医療を担う人材育成で地域に貢献

島根大学と出雲市は、地域医療に関する共同研究として「乙立里家診療所における地域医療臨床教育研究及び出雲市における地域医療の確保と充実に関する研究」を行っています。これは、出雲市の地域医療人材を確保・充実させるために、附属病院のサテライト診療所として乙立里家診療所での実習や研究を行うものです。地域医療を担う人材をどう育成していくか等を研究するとともに、その成果を生かし、地域住民の健康増進や病気予防に寄与します。



出雲産業フェア

島根大学

地元企業との産学連携の研究事例を幅広くPR

毎年開催されている出雲産業フェア。このイベントは、地域の企業等の製品や技術などを一堂に集め、地元産業への理解や企業間の相互のコミュニケーションを深める、また大学等教育・試験研究機関の研究内容を紹介し産学連携の推進を図ることを目的にしています。島根大学からも松江キャンパスの産学連携センター、出雲キャンパスの産学連携センター・地域医学共同研究部門が中心となり、様々なプロジェクトの事例や研究成果を紹介しています。



医工連携支援

産学連携センター 地域医学共同研究部門

医療現場と地元企業の協力でより良い医療へ

出雲市は、新たに医療・介護分野への進出を希望する地元企業と、商品・サービスの更なる高度化・充実化を望む医療・介護分野事業者との「連携」を支援しています。この取り組みの医療・介護分野事業者として、島根大学も様々な共同研究等を行っています。一例として、産学連携センター地域医学共同研究部門が、附属病院の看護師のニーズを取り込んだ「看護・介護の場面をやさしく照らすハンズフリーLEDライト」を地元企業と共同開発しました。



科学の縁結び祭り

島根大学

未来の科学者誕生のきっかけづくりを応援

「科学の縁結び祭り」は出雲科学館で毎年開催され、子ども達を中心に科学に興味・関心を持ってもらいイベントとして毎年5,000人の参加者があります。このイベントでは、島根県内の幼稚園・保育園から高校までの教員とともに、島根大学の教員と学生も工学実験や自然観察などの様々な体験をしてもらえるブース出展をしています。また、他のブース出展の方々とも互いに学び合いながら、より興味深い体験ができるよう工夫をしています。



出雲市って
どんなところ?



島根県東部に位置し、島根半島沿いの日本海、宍道湖、斐伊川などの豊かな自然に囲まれています。また「神話の国 出雲」として知られているとともに、出雲大社や荒神谷遺跡などの歴史・文化遺産を数多く有しています。

IZUMO
CITY

出雲市ウィークエンド スクール事業

教育学部

教育実践力を身につけながら地域事業に貢献

出雲市ウィークエンドスクールとは、出雲市内11か所で開催されている自主学習教室。休日の土曜日に、平日にはできない学習にじっくり取り組みたい、学力アップを図りたいと願う出雲市内の小中学生を対象に、学習支援を行っています。主に退職した教職員など地域の方々が運営をしていますが、島根大学の教育学部の学生も教員に必要な教育実践力を身につける1000時間体験学修の一環として、26名が学習指導にあたっています。



今回紹介する
企業は…

島根県東部で事業展開
一畑グループ
(一畑電気鉄道株式会社)

しまだい × 島根の企業

島根大学の島根県とのつながりは、自治体だけに留まらず、島根県内の様々な企業とも連携・協力しています。「大学と企業」という2つの要素が生み出す効果は、一体どんなものがあるのか、その一例を紹介します。

一畑グループって どんな企業？



「一畑グループ」は、一畑電気鉄道株式会社をはじめ19社で構成され、島根県東部で様々な事業を展開する100年余りの歴史を有する企業グループです。

鉄道事業をはじめ、路線バスやタクシーなど地域の交通機関として重要な役割を果たしているほか、百貨店業やホテル業、建設業なども手掛けています。2010年に公開された映画「RAILWAYS 49歳で電車の運転士になった男の物語」で舞台になった企業としても知られています。

島根大学との連携協定

島根大学と一畑グループは、平成28年3月1日に包括的連携に関する協定を締結しました。これ以前にもインターンシップの受け入れや本学が開講する授業への講師派遣など連携を進めてきたところですが、協定締結によって、地域を支える人材の育成、地域産業の振興、地域資源を活用した観光・文化の振興、地域の健康・福祉の向上及び地域づくり・まちづくり分野において相互に協力し、地域の活性化と人材育成に寄与するため、より緊密な連携・協力を推進していきます。

事例

1

「しまね夢メロン」を使ったメニュー提供

ホテル一畑

×

低カリウムメロン
プロジェクトチーム

本学の低カリウムメロンプロジェクトチームが本庄総合農場で研究開発した「しまね夢メロン」(商標登録)を使い、食事制限のある透析患者さんでも安心して食べられるメニューを考案、ホテル一畑でアレンジ・創作し提供することになりました。これは、「メロンを食べられない患者さんに夢を与えたい」との思いから、生産分野の専門家や透析医、管理栄養士など多くの研究者が開発に携わり実現したものです。8月12日にはホテル一畑で「しまね夢メロン」を使った食事が行われ、人工透析を受けている患者さんや関係者が参加。塩分を抑えながらも、しっかり味付けされたメニューは、香りも味も良かったと好評でした。今後、プロジェクトチームではメロンの量産を、ホテル一畑では季節に合わせたメニューの提供を目指しています。



アレンジ・調理



株式会社 ホテル一畑 洋食料理長

照沼 英則 さん

室温で香りが強くなるまで追熟し、甘味のあるスープに仕上げました。かなり追熟させましたが、種の周りの部分は苦みもなく良い感じでした。今後は、ヨーグルトの酸味とメロンの甘味を生かしたスイーツを考えています。



株式会社 ホテル一畑 和食料理長

金崎 貞文 さん

メロンと聞き、そのままの状態では使えないかと考え、浮かんだのが肉料理でした。試行錯誤しながら素材を生かしてソースとして利用しました。透析患者さんにとって、このメロンは素晴らしい食材だと思います。

メロン開発



生物資源科学部
農林生産学科 教授

浅尾 俊樹

元同僚の「祖父が透析患者で、好きなメロンを食べられない。カリウムの少ないメロンは作れませんか？」という一言から研究・開発が始まりました。このメロンはカリウム含有量を約半分にしています。大きさや甘さが一般のメロンと変わらないので、家族も一緒に食べられます。透析患者さんにとって家族と同じものが食べられるのは大きな喜びだと思います。現在は、生産・販売のために地元企業と共同研究を進めているところです。今回のように地元の観光施設に提供し、透析患者さんにも安心して島根で旅を楽しんでもらえることを期待しています。

一畑電車の活性化を考える集中講義

一畑電車



ソーシャル
ラーニング授業

一畑電車株式会社の協力のもと、ソーシャルラーニング授業「島根の企業と経済」を実施しました。今年度は、景観を生かした地域活性化をテーマに、車窓から見える沿線景観の魅力を再発見する車内アナウンス原稿を作成し、9月5日に走行する臨時電車内で学生が車内放送を行いました。季節別に見える野鳥の紹介や自転車持込可能な電車であることを踏まえたサイクリングコースの案内など、学生らしい視点の光る車内放送となりました。

この成果発表としての学生の車内放送は、一畑電車において活用されることとなり、今後の更なる協働が期待されます。



電車沿線案内



一畑電車株式会社
運輸部 取締役部長

石飛 貴之 さん

電車の案内放送に一工夫するだけで、毎日利用する方にも電車に乗る楽しみを見出すことができます。今回学生の皆さんから出されたアイデアは即実践に使えるものもあり、既に取り込み活用させてもらっています。また、この機会を通じて、鉄道自体の存在意義や交通インフラとしての重要性だけでなく、鉄道を取り巻く環境を含め、大きな視点で物事を捉えることを学んでほしいと思います。

受講生



生物資源科学部
生物科学科 2年

松岡 沙希 さん

一畑電車に乗るのは初めてでした。電車内にアナウンスをされる方がいる事に驚き、駅や駅周辺のスポットについて説明される姿はとても素敵でした。この講義は他大学の学生も受講していて学年も幅広いです。また、自分たちの興味があることについて現地に行って調査ができます。講義を通して、受講生だけでなく、そこで働く方や地域の方など、様々な交流ができたことが魅力でした。



様々な交流を育んだ秋のイベント

卒業生 & 在学生が活躍!

ホームカミングデー & 大学祭

Homecoming Day & University Festival Report

レポート

卒業生 & 在学生が活躍!



学生活動報告では計6名が発表。そのうち教育学部の片山さんの活動についてはP23で詳しく紹介しています。

大学の今、先輩たちの今を知る

卒業生との交流を育む ホームカミングデー 01

卒業生に現在の大学の様子や活動を知ってもらうとともに、卒業生と在学生の交流の機会として、毎年松江・出雲の両キャンパスで「ホームカミングデー」を開催しています。松江キャンパスでは10月9日に、約150名の卒業生や一般の方々を迎えて、各学部(医学部を除く)の学生が日頃の教育・研究等の活動を報告する学生活動報告会と、演奏会が行われました。

演奏会に出演いただいたのは、本学教育学部の卒業生で、サクソ奏者の宮本美香さん、また、同じく教育学部卒業生で、ピアノ奏者の三浦芳男さんのお二人。演奏が始まると、軽快なリズムに合わせて手拍子が起こり、会場内が一体感につつまれました。曲の合間には、宮本さんが学生時代の話やご自身の現在の活動について話されました。在学生は先輩の華やかな活躍ぶりに触れ、卒業生は懐かしい想いとともにも母校への愛着を再確認していました。

演奏曲目

1. tico tico no fuba
2. The Entertainer
3. アルトサクソフォンとピアノのための組曲『City of Lake ~湖の都~』(オリジナル曲)
4. MOTHER(オリジナル曲)
5. Libertango 他



会場の臨場感をお届けします!

演奏会ダイジェストはこちらから





在学生在活躍!

学生たちの個性やこだわりが満載!

様々な「縁」を結んだ大学祭 02



学生にとって最大のイベント・大学祭が、2016年10月に松江・出雲の両キャンパスで開催されました。大学祭といえば、学生が盛り上がるだけでなく、学生と地域の方々が交流を深めるための大切な場でもあります。今年は、8～10日に松江で「松風祭」、15・16日に出雲で「くえびこ祭」が行われ、ステージや模擬店、展示など、学生たちの個性が光る企画が揃い、会場は子どもから大人まで多くの来場者で賑わいました。

今年が一番の見どころは、なんといっても松江・出雲の両大学祭のコラボ企画。各キャンパスの軽音楽部が会場を交換してライブを実施しましたが、実は両大学祭が共同するのは初めての試みで、キャンパス間の交流も図れたようです。大学祭をつくりあげた学生たちの努力は、大学祭の伝統とともに、後輩たちに受け継がれていきそうです。



\\ 実行委員長に聞きました! //

Q.どのような大学祭でしたか?

松江



今までで一番良い大学祭に、そして自分たちらしさが出るものにしたと、強い想いを持ったメンバーが集まり、真剣に考えて挑戦した大学祭でした。運営面では、これまでの業務や工程をすべて見直して効率化を図り、企画面では初めて出雲キャンパスとの繋がりを持つことができました。準備～当日～引き継ぎまで、一つひとつの場面すべてが大切な想い出です。



企画も運営方法も“自分たちらしさ”にこだわりました!

第66回大学祭実行委員会実行委員長
にしかわ まなみ
西川 愛美さん
法文学部 言語文化学科 2年

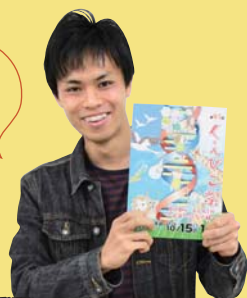
出雲

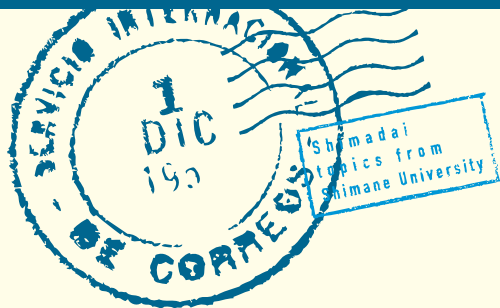


今年「心機一転」をテーマに、これまでの伝統を礎にしつつ、新しいことに挑戦しようと臨みました。今回最も力を入れたのは、医療系ブースの充実です。学生のブースだけでなく、医学部附属病院をはじめ県内の小児科、精神科の先生方、認定看護師の方にも初めてブース出展いただき、地域の方々と医学部生の交流を深められる貴重な機会になりました。

新たな挑戦を目標に掲げ医学部ならではの企画で地域との縁を深めました

第41回くえびこ祭実行委員長
おおもり なおき
大森 直樹さん
医学部 医学科 4年





大学のホットな情報をお届け

しまだい便り

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から、大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えます。

今後の地域活性化・地域貢献人材の育成に期待
奥出雲町と包括的連携に関する協定を締結

10月6日(木)、奥出雲町『玉峰山荘』において、本学と奥出雲町との包括的連携に関する協定の締結式が行われました。本学と奥出雲町は、これまでも「たたら製鉄」や「そろばん」など、同町の資源を活用した協働事業や、本学からの医師派遣による地域医療支援を行ってきましたが、この度の包括的連携に関する協定締結により、地域活性化や地域貢献人材の育成、地域医療の充実に向け、さらに緊密な連携・協力を推進していきます。

締結式で服部学長からは「この度の協定は、たたら製鉄や奥出雲病院に関する事項を盛り込むなど特色のある内容となっており、奥出雲町と協力しながら地方創生に貢献できる具体的な成果を示したい。」と挨拶があり、勝田町長からは「島根大学からの人的支援により産業・雇用の活性化や地域



医療の維持を図るとともに、この取組みが地域を支える人材育成に資することを期待する。」と挨拶がありました。また、当日は記念として、同町で継承される「たたら製鉄」により作られた「玉鋼(たまはがね)」が、勝田町長から服部学長に贈呈されました。この協定の締結により、本学と奥出雲町との組織的な連携・協力がさらに増し、地域社会の発展に寄与できることを期待します。

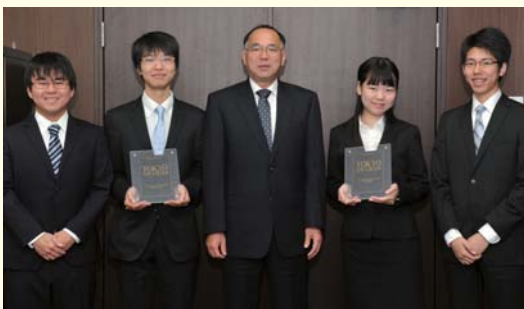
多様性を理解するための環境づくり
学生食堂にて「ハラル食」の提供を開始



9月26日(月)より、本学の学生食堂にて「ハラル食」の提供が始まりました。これは、本学でも受入れが増えているイスラム圏の留学生から要望があり、島根大学生生活協同組合・留学生・本学の三者で協議を重ね実現しました。このハラル食の提供を留学生の環境改善としてのみ捉えるのではなく、大学全体のグローバル化促進の一環として、日本人学生が異文化への理解を深めるための場としても活用していきます。

学校・学部・研究科の枠を超えたチーム力を発揮

「世界学校作品展」グランプリ受賞報告



本学学生が島根リハビリテーション学院の学生と共同で出展した「Tokyo Design Week 2016 世界学校作品展」において学生賞部門グランプリを受賞し、服部学長へ受賞報告を行いました。雲州そろばんを活用したプロトタイプを作成し出展したもので、本学からは5名が参加。受賞者は「10人が一緒になって取れたものだから非常に嬉しい。お世話になった方々にお礼を言いたい。」と喜びを語りました。



※QRからサイトにアクセスいただけます。

活用の幅が広がる全国初の「電子書庫」システム

しまね地域資料リポジトリ「GO-GURa」を公開

11月1日(火)、しまね地域資料リポジトリ「GO-GURa(郷蔵)」が公開されました。これは、県内の行政機関や各種団体が発行する様々な資料を電子的に蓄積し公開する電子書庫です。COC事業(島根大学地の拠点整備事業)の一環として、附属図書館と地域未来戦略センターが共同で整備したもので、現在8機関の380件のコンテンツを公開。「GO-GURa」のように行政機関や各種団体が発行する資料を収集し、電子的に公開するシステムは全国に例がなく、本学が初。今後は「地域志向教育」の課題解決型授業の他、小中高校での調べ学習、図書館でのレファレンスツール等で活用が期待されます。



医薬の神が祀られる地で糖尿病予防を啓発

世界糖尿病デー・出雲大社御本殿ブルーライトアップ

インスリンの発見者、フレデリック・バンティングの誕生日にあたる11月14日は「世界糖尿病デー」に指定され、世界各地の有名な建造物がブルーにライトアップされます。今年で2回目となる出雲大社では10月30日(日)に、島根大学医学部附属病院のスタッフが実行委員の中心となって、多くの観光客や地元の方々が見守る中、御本殿が幻想的にライトアップされました。ライトには地元企業DOLAIT株式会社が開発したLEDライトが使用されています。医薬の神様が祀られる出雲の地から、糖尿病の予防と治療の重要性のメッセージが発信されました。



学生赤十字奉仕団が日頃の成果を発揮

第7回赤十字救急法競技大会で初優勝

日本赤十字社島根県支部主催による第7回赤十字救急法競技大会が、10月16日(日)に島根県立武道館において、開催されました。本学からは、学生赤十字奉仕団「ぶらす」から1チームが選手として参加。日頃の練習成果を発揮し、三角巾包帯法の部で見事初優勝しました。本学松江キャンパスでは、学生を含め約6千人が諸活動を行っており、今後も万二に備えて講習の開催や競技会への参加等、技能の習得・向上に努めます。



元広島東洋カープの投手を講師に招いたセミナー

大野豊さんのリーダー養成塾を開催

10月19日(水)にサークルリーダー研修会の一環として、出雲市出身で元広島東洋カープの投手であり、現在野球解説者の大野豊さんを招き、NHK大学セミナー「大野豊のリーダー養成塾」in島根大学を開催しました。大野さんからは、25年ぶりにリーグ優勝に輝いた今年の広島東洋カープにおけるリーダーの役割や、相手の長所を伸ばす指導の仕方など、これまでの経験に基づいた貴重なアドバイスやメッセージが贈られました。

キラリ★島大生 学びのチカラ ①



かたやま しづ
片山 詩都 さん

教育学部 学校教育課程 I 類
特別支援教育専攻 4年

山口県出身。現在、「ASDとストレスマネジメント」を研究テーマに、卒業論文を執筆中。

日頃から専門的な研究や地域で活躍する学生たち。そんな輝く島大生の教育・研究などの活動の特集するシリーズ企画です。今号からホームカミングデー（P19）で発表した学生を連載で紹介していきます。初回は、松江市内のレスパイト活動に参加し、自閉スペクトラム症について研究している教育学部の片山さんに、研究の内容や今後の展望について伺いました。

レスパイト活動を通して ASDへの支援の在り方を探る

子どもとの関わりの中から
ASDへの理解を深める

子どもの目線で考えて
一人ひとりの特性を知る

小学生の頃に『光とともに…』という漫画に影響を受け、高校時代からASDの子どもたちと関わる機会があったという片山さん。「ASDのお子さんはすごいところがたくさんあるのに、できない部分ばかり焦点があたっているのが残念でしょうがない」と、この分野に対する強い想いを語り

一緒に本を
読む・絵を描く・公園で遊ぶなど様々な活動を行うにあたり、最も気を付けているのは安全面



大学内での活動の様子。活動内容は、子どもや保護者の方のニーズに応じて様々。

ます。ASDへの理解を深めるために、片山さんが大学1年から行っているのがレスパイト活動です。「これは、障がいのある子どもを持つ保護者の方の休息を目的とした活動なんです。私は

ですが、もう一つ大切なのが、やり方の手順を伝えること。「私たちは環境の構造化と呼んでいます。集中できる整備された環境を作った上で、これが終わったら次はこれ、というように一つ一つ手順を伝えていきます。これがスムーズな活動につながるのだそうです。活動方法を試行錯誤し、子どもたちと過ごす中で様々な気づきがあったという片山さん。「子どもの成長には

ASDの正しい理解のためには、実際に関わってみることが必要と片山さんは言います。「実情を知らずにASDの人はこんな人」という固定概念を持ってしまつのはとても残念。まずは関わってみて、その子を知ることが大切だと思います。

直接お子さんと関わって、具体的な支援について考える機会にもさせてもらっています」。

差があります。成長がゆっくりなら成長に待つし、なぜそうなるのかを、子ども

卒業後は、小学校教諭として働く片山さん。学級経営をしていくにあたり、今回の経験を生かしていくと同時に、障がいに対する理解を広く深めてもらうために尽力していきたいと力強く語ってくれました。



戸部けいこさんの『光とともに…』。自閉症児の困難な育児を描いた作品。

※ASDとは…自閉スペクトラムのこと。発達障がいのひとつで、その症状の特徴として他者とのやりとりの難しさや、こだわりの強さがあげられます。

読者の声

Voice

に、お答えします!

毎号、「広報しまだい」に寄せられた声をお届けしていますが、なかなかご要望やご意見に対して個別にお答えができていない現状です。そこで今回は、vol30にてお寄せいただいたご意見・ご感想に、広報しまだい編集部が出来る限りお答えします。

前回当選させてもらったイチゴジャムとっても美味しかったです。また食べたいと思いましたが、買えるのかな?と思っています。(鳥根県出雲市・30代女性)



お召し上がりいただき、ありがとうございました。本庄総合農場の生産物は、道の駅本庄(松江市野原町)もしくは鳥根大学生協ショップで販売しております。是非お買い求めください!

私は鳥根大学の卒業生です。昔に比べると地域との交流や地域への情報提供は目覚ましいですね。今後とも定期的な鳥大の情報を楽しみにしております。(鳥根県出雲市・70代男性)



お便りありがとうございます。鳥根大学では今後も地域交流を深めていき、その様子を広報しまだいで発信していきたいと考えております。

夢メロン、障がい学生支援室など、広報誌により鳥大の最新情報を知ることができて、大変興味深く読んでいます!(鳥根県益田市・50代女性)



お便りありがとうございます。今後も鳥大の「今」を知っていただくよう、広報しまだいづくりに努めていきたいと思えます。今後ともよろしくお祈りします。

音楽関係も、ページよろしく(鳥根県出雲市・60代女性)



ご意見いただき、ありがとうございます。今号では、本学教育学部卒業生のサクソ奏者、宮本美香さんの演奏の様子を掲載しましたが、いかがでしたか。ホームカミングデーの演奏会は、感動を呼ぶすばらしいものでした。

鳥大の色々な学科がどんな活動や、勉強をしているのか、もっと知りたい。(鳥取県西伯郡・40代女性)



ご意見いただき、ありがとうございます。今号より「キラリ鳥大生 学びのチカラ」と題して、活躍する学生の紹介の連載を開始しました。学生が普段どのような勉強、研究をしているのか、クローズアップして紹介するコーナーです。ご期待ください。

日本一の高齢県、お年寄りが多いため、分かり易い図やグラフを使ってのPRをしていただきたい。(鳥根県江津市・60代男性)



貴重なご意見をいただきありがとうございます。広報しまだいで今後も、文字の大きさや色使いなど、どなたにも読み易い広報誌を目指して参りたいと思います。

荒れた森林を元気にしよう!
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなを
まもろう!

山陰合同銀行

鳥根大学オリジナル芋焼酎
神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で栽培された
サツマイモから誕生した「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット...3,200円(税込)

鳥根大学生協同組合
〒690-8504 鳥根県松江市西川津町1060 TEL.0852-32-6240
<http://omise.seikyoku.jp/shimane>

新聞の
折り込みで WEB
サイトで フリー
ペーパーで

お仕事見つかる
メリット

求人
情報

メリット 求人 検索

鳥取・島根のおしごと探し
Webメリット

鳥取・島根のおしごとサーバー
株式会社メリット
松江市古志原5-2-43
TEL.0852-23-1749

Reader's Voice



しまだい's サークル

Shimadai's Circle

各キャンパスでそれぞれの特色を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

松江キャンパス

ソフトテニス部

自慢のチームワークを武器に総合力で勝負

中四国や西日本エリアの学生大会からリーグ戦など、年間数多くの試合にエントリーするだけでなく、近隣の中学生・高校生との練習試合なども積極的に行う島根大学ソフトテニス部。現在は、25名の部員たちが日々の練習に励んでいます。そんなソフトテニス部の「チーム丸となった時の総合力が自慢」と言う越智大輝キャプテン(2年)は、「しっかりしたOB組織のおかげで、一般社会との関わりも深く、好きなテニスに打ち込みながら、社会勉強ができる点もこの部の良さです」と続けます。来年度の目標は中国地区リーグ戦の団体優勝とのこと。今後は女子部員の増員にも力を入れつつ、さらに充実した活動を目指していくようです。



1.声をかけあい、常に笑顔のたえないソフトテニス部。部員同士の仲の良さが、部の雰囲気にあらわれている。2.ナイター設備の行き届いたキャンパス内テニスコートで練習に汗を流す部員たち。



山陰学生弓道大会において団体3位の好成績

医学部で最も歴史のあるクラブのひとつ「医学部弓道部」。現在は女子部員が多いこともあり、華やかで活気にあふれています。多忙を極める医学生ですが、週3日の全体練習だけでなく、自主練習も活発に行われています。練習の成果は、中四国医学生弓道大会(7月)、西日本医学生体育大会(8月)などで発揮されますが、今年10月開催の山陰学生弓道大会においては、団体戦の3位に続き、チームを率いた宮島伸枝主将が女子個人3位と好成績をマークしました。プライベートでも仲の良い結束力と自主性のバランスが自慢という宮島主将は、「これからも皆が思い描く弓道に向かって、互いに切磋琢磨していければ」と抱負を語ってくれました。

出雲キャンパス

弓道部



1.大学から始めた部員も多く、それぞれのベースで、目標を持って弓道と向き合っています。2.自主練習も活発なため、いつでも好きなときに練習できるよう、全員が部室の鍵を所持。



島根大学はスサノオマジックを応援しています!

スサノオ戦士たちの序盤戦が終了 首位を射程圏に入れ 次なる戦いへ!!

9月に開幕したB.LEAGUE 島根スサノオマジックの神話第七章。11月13日を
終えた時点で全30節(60試合)のうち、7節14試合を消化。9勝5敗の成績
でB2西地区3位(全6チーム)に位置している。スサノオマジックは『最短B1昇
格』を合言葉に今シーズンに望んでおり、今後、12月から始まる他地区(中・東
地区)との交流戦は1つも落とせないサバイバルゲームとなること必至。

1月~3月までの交流戦(ホーム開催分)の見どころをCheck!! /

1/2(月)・3(火)
in 松江市総合体育館

VS 青森ワッツ
(東地区5位 / 6勝8敗)

#2ウィグンス、#33パローンがチーム
の2大スコアラー。その実力はリーグの
トップ10に入るほど。強気なディフェン
スでしっかり封じ込めたい。

2/4(土)・5(日)
in 松江市総合体育館

VS 群馬クレインサンダース
(東地区1位 / 11勝3敗)

神話第4章で島根にも所属していた
#15ケネディが“不動”のエース。チーム
も好調なので、ケネディの派手な凱旋
にならないような試合を。

2/25(土)・26(日)
in 松江市総合体育館

VS バンビシャス奈良
(中地区4位 / 5勝9敗)

昨季広島島のキャプテンを務めた#25平
尾が新天地である奈良でも実力を発
揮。現在3ポイント成功率リーグ2位の
好シューターで、同1位の島根・#32安
部との3ポイント対決も見ものだ。

3/11(土)・12(日)
in 松江市総合体育館

VS 信州ブレブウォリアーズ
(中地区5位 / 5勝9敗)

#3シャノン(シャノン)は信州リーグ下にてリバウ
ンドを担い、絶対的存在感を放つ守り
の要。昨季bjリーグ・リバウンド王の
島根#00デービスとのリバウンド対決
にご注目!!



左記4カードの中でも群馬戦は、B1昇格争いに向けた交流戦の中で最重要カード。東地区首位との戦いをホームで迎えられる利を活かして必ず勝利をつかみ取りたい!!

島根スサノオマジックの
最新情報は…

島根スサノオマジック公式HP <http://www.susanoo-m.com/>
島根スサノオマジック事務局 ☎0852-60-1866 (平日10時~18時)
また、島大生のホームゲーム運営サポートボランティアも募集中。詳しくは学生支援センターまで。

島根大学
支援基金
寄附者一覧

ご協力ありがとうございました。
個人からのご寄附
熊澤 修
※平成28年8月1日~10月31日

島根大学では学生に対する修学支援及び社会貢献事業を充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。
TEL 0852-32-6603(総務課)
 http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/
※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載していません。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。
今年最初の号では、教育学部1年生で飛び込み競技の須山晴貴さん特集しました。以前より、松江市出身の彼の活躍をメディアで何度も目にしていたのですが、今回の取材に同行し、目標に向かって競技に取り組む思いや文武両道を実行している様子をうかがい、感銘を受けました。ご本人の努力はもちろん並大抵なものではないのかもしれませんが、そこには多くの方々の尽力を惜しまない支えもあるのだと感じます。2020年東京オリンピックに向けてますます注目の選手です。
本学では4月より「人間科学部」がスタートし、新たな経験や学びを求めた多くの新生を迎えます。広報しまだいでは、今年も様々な分野で活躍する学生の姿をどんどん発信していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先
〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学 広報室
TEL.0852-32-6603 FAX.0852-32-6019
 gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
 <http://www.shimane-u.ac.jp>

PRESENT
ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工された「トマトジュース3本セット」をプレゼントします。
※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/平成29年3月9日必着



古代出雲文化

Forum on Ancient Izumo Culture

フォーラムV

『出雲国風土記』と古代の道

道から考える古代出雲の世界

道は、人と人、地域と地域を結びます。『出雲国風土記』にはそうした道の姿が描かれています。埋もれていた古代の道の姿も発掘調査で次々と明らかになってきています。道から古代出雲の世界にわけいってみましょう。



日御碕神社本 出雲国風土記 表紙



出雲国庁と古代道路 (八雲立つ風土記の丘模型)



杉沢遺跡 道路遺構から神火山(仏経山)を望む



島根県観光キャラクター「しまだい」 島根連計第4016号

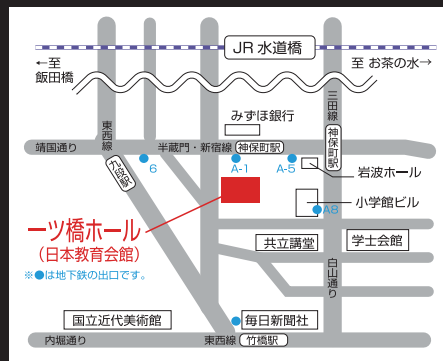
平成29年 **3月19日** **日**
13:00~16:30

会場 **一ツ橋ホール**
東京都千代田区
日本教育会館 3F

定員 **800名** (先着順)
参加費 **無料**

参加には事前のお申し込みが必要です。
(事前にお申し込みいただいた方には、後日入場整理券を送付します。)
島根大学ホームページ・FAX・ハガキにてお申し込みください。
▶ 詳細は島根大学HP <http://www.shimane-u.ac.jp/>

【主催】島根大学 【共催】島根県、島根県教育委員会、松江市、出雲市、安来市、雲南市、奥出雲町、飯南町
【後援】文化庁、山陰中央テレビジョン放送株式会社、株式会社山陰中央新報社、株式会社山陰放送、日本海テレビジョン放送株式会社、株式会社山陰合同銀行



開会挨拶 服部 泰直 (島根大学学長) 司会 石原 美和 (フリーアナウンサー)

第1部 シンポジウム(13:10~15:30)

講演 1 「風土記の道・古代国家の道」
13:10~13:40
大日方 克己 (島根大学法文学部教授)

講演 2 「『出雲国風土記』と掘り出された古代の道」
13:40~14:10
大橋 泰夫 (島根大学法文学部教授、島根大学古代出雲プロジェクトセンター長)

講演 3 「出雲市杉沢遺跡で見つかった古代山陰道」
14:10~14:40
宍道 年弘 (出雲市文化財課課長補佐)

講演 4 「古代の出雲国内の道と史跡名勝」
15:00~15:30
野々村 安浩 (島根県古代文化センター特任研究員)

第2部 座談会(15:30~16:30)

「『出雲国風土記』と古代の道」
おびな 大日方 克己 (島根大学法文学部教授)
大橋 泰夫 (島根大学法文学部教授、島根大学古代出雲プロジェクトセンター長)
しんじ 宍道 年弘 (出雲市文化財課課長補佐)
野々村 安浩 (島根県古代文化センター特任研究員)
司会 会下 和宏 (島根大学ミュージアム准教授)

お問い合わせ



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

島根大学総務部総務課 TEL 0852-32-6603
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 E-mail forum@office.shimane-uc.ac.jp

